



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.256
2015(平成27)年 1月20日(火)発行



○昨年11月28日、俳優菅原文太さんが肝ガンで死去。81歳。仙台一高新聞部時代、1年後輩に井上ひさしさんがいた。○晩年は俳優を引退し、有機農業にはげみ、政治に関心を寄せ「平和」や「脱原発」を訴えていた。11月の沖縄県知事選では「政治の役割は二つ。一つは国民を飢えさせないこと。もう一つは、絶対に戦争をしないこと」と演説。○「白河以北一山百文」の東北地方に心を痛め、震災後の復興のため尽力されていました。

隠蔽され つのる放射能への不安 帰還ばかりを急ぐ国や政府 市民と科学者の内部被曝問題研究会理事長・名古屋大名誉教授 沢田昭二氏の声明 被曝について、日本政府の4つの誤り <要旨>

- ①放射線被ばくの健康影響の過小評価。放射線被ばくで病気になるリスクを一ケタ近く小さく見積もっている。内部被ばくの影響を無視している。
- ②放射線被ばく量の過小評価。被災地域の放射線被ばく量をきわめて小さく見積もるよう印象づけている。モニタリングポストは放射線ブロックを行い、「公表空間線量」は実際値の半分です。ガラスバッチなどの個人線量計は、前面の測定だけで、現実の被ばくの10%程度の線量しか計れない。
- ③放射線被ばくの害の非科学的否定。小児甲状腺がんを被ばくと関係ないと断定している。再発や合併症を減らすためには、早期発見が必要です。
- ④チェルノブイリの教訓の無視。内部被ばくにより、がんだけでなく様々な病気、心臓病、脳卒中、呼吸器疾患などが増えるおそれがある。

福島への 帰還を進める 日本政府の 4つの誤り

隠される放射線障害と
健康に生きる権利

「安全神話」から「安心神話」へ

◆これは2014年9月25日発売されたく沢田昭二・松崎道幸・矢ヶ崎克馬・島蘭進・山田耕作・生井兵治・満田夏花・小柴信子・田代真人の共著『福島への帰還を進める日本政府の4つの誤り 隠される放射線障害と健康に生きる権利』旬報社・¥1400+税>の一部要旨です。

◆国、政府、官僚、東電、県、福医大が推進していることは、ことごとく原発被災者や避難者にとって、不安を増し疑心暗鬼なことばかり。12月28日、南相馬市の特定避難勧奨地点指定も住民の不安を全く無視して解除。帰還も強制的です。県内子どもたちの甲状腺ガンの漸増も心配です。事故について、誰れひとり責任をとらない不可解さ。

作・演出 倉本 聡 富良野GROUP公演

ノクターン夜想曲

○ 南相馬市民文化会館(ゆめはっと)

○ 2015年2月1日(日)開場13:30

<チケット> 友の会会員3,200円・一般3,500円・高校生以下1,000円 ゆめはっと、福島民友販売店へ

○この演劇は、『北の国から』の倉本氏作・演出で、相双地区を舞台にした津波と原発事故被災者の苦悩をテーマにした物語です。原発事故に怒りを感じる方、観に行きましょう!

<2015年他市の公演> ○3月1日(日)會津風雅堂 ○3月3日(火)郡山市民文化センター

○3月5日(木)いわき芸術文化交流館アリオス ○3月7日(土)福島県文化センター

会員より 12月総選挙 私はこう思う!

- 沖縄県民の思いに応えないのであれば、日本国に民主主義は存在しない。福島県民の秘めた怒りに気づかないのであれば、日本はいのちを尊重しない国だ。(原町区・若松丈太郎さん)
- 総選挙の結果は、三分の二を自公で占める体制は変わらず、日本国民の良識の無さがくっきりと浮かび上がりました。自民党でなければ復興できないとの見方が主流で、原子力発電所立地の地元とは思えない。(福島市・二上英朗さん)
- 地域や人間関係や自然まで壊した原発事故。事故現場や被災地を見たら、絶対再稼働などありえない。地元選出の議員も声を出さず、事故が起こって「まさか」とでも言うのか。(Fさん)
- 投票率52.66%、自民党得票率33.1%と公明党13.7%を合わせて46.8%。しかし有権者数からすると4人中の3人は支持していないことになり、4本の1本の足で巨大な机(日本)を支えていることになります。アベノミクスも虚構で国民は欺されています。(原町区Yさん)

「知るべき情報が制限されないか心配」

特定秘密保護法施行の記事に

平田会長の憂慮のコメントが掲載

昨年12月11日付『毎日新聞』県内版(一部)▼

安保に関心が高い南相馬市原町区の住民ら約400人で行った市民団体の「はらまち九条の会」の会長で医師の平田慶肇さん(77)も不信感を抱く。原発から出る放射性物質の拡散を予測するSPEED I(緊急時迅速放射能影響予測システム)のデータを、政府が事故直後に公表しなかった。前例があるからだ。平田さんは同区がどれほど放射能で汚染されているか分からない不安を抱えながらの生活を強いられたい。政府は人命にかかわる情報でも都合が悪ければ隠したがる。知るべき情報が制限されないか心配だ」と話した。

【土江洋範】

事故原発に世界一近い「九条の会」を自覚して
今年も九条を守る一点で活動します

〈事務局員より年頭の一言あいさつ〉



あけましておめでとうございます。最近の安倍政権の動きから見て、今年は憲法9条にとって、大変危機的状況にあります。世界平和のため日本を戦争に巻き込まないため憲法9条を絶対守らなければなりません。皆様の引き続きのご協力をお願いいたします。(会長:平田慶肇)

犬の遠吠えのような会報を編集し、また会のまとめ役の責任を果たしておらず、会員の皆様に申し訳なく思っています。私たちの人生や地域をこんなに破壊し、反省も責任もとらない原発事故に、怒りの声を出し続けたい。(事務局員:山崎健一)

9条に「ノーベル賞」が取れるよう、今年も署名活動に頑張りましょう。今年は本会結成10年の記念の年です。ご協力をよろしくお願いします(会計:井上由美)

福島の人たちは大人し過ぎるという声が届いた。沖縄の長い闘いを傍観してきた側に立った発言と同じ様に聞こえる。憲法で守られない沖縄と福島、そのことに気づかなければ民主主義と自由を失うことになる。(石田賢二)

今年がどんな年になるのか、もともと先の見通しなど予測不能な私には皆目見当もつきません。ただし、憲法をめぐる現状が絶望的であればあるほどこのままで終わるはずはないという思いが……。 (早坂吉彦)

1月11日南相馬市の成人式会場前で、今年も例年通り、『憲法・小冊子』を新成人に配布しました。戦後70年、憲法が重大な危機を迎えている中で手渡しは、自然に力が入りました。(志賀勝明)

ホームページは「はらまち九条の会」で検索開けます。担当も3人体制になります。より見やすく楽しく、声や動画が多くなります。ご意見はメールポストで送信出来ます。お気軽に、ご意見をお寄せください。今年は皆さんで、戦争はダメダメの声を大きく広げるホームページへ、ガンバリます。(HP担当:大浦祥見)

戦後70年の間、私達は何を求め、何を行い、その結果2015年の今、世の中はどうなったか。私達は何を為すべきか、「今」何を「為さなければならないか」、今一度、自身を問い直す必要がある。(HP担当:栗村文夫・桂子)



事務局員一覽はNo.253に!

脱原発や再稼働反対のメッセージを募集中です!♡♡東京都北多摩東退職教職員九条の会では、2月13~17日、三鷹駅前の武蔵野芸術劇場で「まんさく展」という作品展を開催し、会場半分で南相馬市被災コーナーを設けます。会員の皆様から「九条・脱原発・再稼働反対」などの言葉をハガキで募集しています。〆切2月5日。〈応募ハガキは錦町の井上薬局にあります〉♡♡また、東京の日本社会事業大学専門職大学院の方々は、「南相馬を応援する会」設立を準備中です。♡♡二団体は一昨年、昨年と南相馬市を訪問していて、震災から4年の今、有難いことです。